

帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業【佐伯市】

現状と課題

- ・佐伯市での帰国・外国人児童生徒等の指導ができる支援体制づくりが不十分である。
- ・多言語化が進み、母語での指導で個々に対応するのは限界がある。いつ、どの国から転入があるかわからない状況である。
- ・佐伯市教委が人材を確保・育成し、学校の要請に応じて人材を派遣するなど、システムづくりを行うことで、当該児童生徒の実態に応じた指導体制の構築を進めていく。

事業内容

日本語指導アドバイザー

- 日本語指導アドバイザーを招聘し、日本語指導への助言を求める。
- 派遣校を拠点として、適切な日本語指導の確立のための取り組みを行う（個別の能力に応じた「特別の教育課程」の作成、日本語指導支援員と連携した指導内容の構築 等）



連動

日本語指導者養成・スキルアップ研修・連絡会を
実施して指導力アップ

日本語指導支援員の派遣

- 日本語指導が必要な児童生徒に支援員を派遣し、児童生徒の能力に応じた指導を行う

事業成果

児童生徒の日本語能力アップ
指導者の日本語指導力アップ



- 日本語指導を継続的に実施することにより、児童生徒の日本語能力の向上が図られ、学校生活への適応やより良い進路選択の実現につながった。
- 支援員の適切な派遣により、個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行うことができた。